

CROWN Jr.をよりご理解いただくためのキーワード

『CROWN Jr.』は、HOP → STEP → JUMPという学びのプロセスを踏まえた特徴的な構成になっています。この構成を支える考え方をご理解いただくために、新学習指導要領や英語教育における2つのキーワードについて、『CROWN Jr.』と関連させながら整理しました。

●主体的・対話的で深い学び

新学習指導要領の特徴のひとつは、「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」についても記述されている点です。「どのように学ぶか」のキーワードが「主体的・対話的で深い学び」です。

「主体的な学び」の実現には、児童がコミュニケーションをおこなう目的を理解し、「やってみたい」「学んでみたい」という意欲をもつこと、どう学んでいくのかを自ら考えること、そして学んだあとは学習全体をふりかえるというプロセスが大切です。HOP → STEP → JUMPの大単元、STEPやJUMPの小単元は、そうしたプロセスをなぞる構造となっています。

「対話的な学び」で重要なことは、対話を通して学べるような言語活動をすることです。その実現のために、Listen & Talk、Talk to Friends、Write & Talk、JUMPなどにおいて、趣旨を生かした活動を設定しました。

「深い学び」とは、「知識及び技能」にかかわる資質・能力を、「思考力、判断力、表現力」などを働かせて活用することによって断片的な知識に終わらせない学びをすることです。STEPでの「知識及び技能」に力点を置いた学びを受け、JUMPで「思考力、判断力、表現力」を活用して学びを深める構造になっているのはその具体化の1つです。

●CAN-DOリスト

CAN-DOリストとは「外国語を使って何ができるか」を具体的な行動として記述した文のリストのことです。このリストがあることで、目指す姿が明確になり、先生方にとっては指導と評価の改善に活用でき、子供たちにとっては、自ら学ぶ態度・姿勢を身に付けたり、達成感を持つことで学習意欲を向上させることが期待されています。

『CROWN Jr.』では、各学年の巻末にCAN-DOリストのページを設け、「自分が好きなことや、とくいなことなどを紹介することができた」(「話すこと(発表)」)や「英語の大文字を見て、声に出して読めるようになった」(「書くこと」)などの記述文を提示しています。各記述文には、どの技能と関連しているのか、本編のどの活動と関連しているのかなどの情報も付けました。

このCAN-DOリストを、学年の始めに目標として意識づけをしたり、学年の途中や終わりにふりかえて自分の力を確認することで、子供たちの学びに向かう力を育むことができます。

JUMPに紐づいた各学年3つ(2学年で6つ)のCAN-DOの記述文は、小学校卒業時に、英語で何ができるようになったかを端的に表現しており、『CROWN Jr.』本編の単元構成の根拠となっています。

